

第2回健康増進センター指定管理者選考委員会 議事録

- 1 日 時 令和3年9月30日(木) 午後1時00分～午後4時00分
- 2 場 所 横須賀市生涯学習センター 第1学習室(ウェルシティ市民プラザ5階)
- 3 出席委員 健康増進センター指定管理者選考委員 5名
鈴木委員長、野尻委員、林委員、土田委員、夏目委員
- 4 事務局 保健所健康づくり課
山本課長、長谷川主査、渋谷主査、竹内主査、山本主任、村中主任
- 5 傍聴者 9名
- 6 議事内容
鈴木委員長より開会を宣言した後、事務局より審査方法や質疑応答について説明を行い、健康増進センターの指定管理者選考に応募のあった「株式会社 明治スポーツプラザ」から提案内容に係るプレゼンテーションを実施した。
プレゼンテーションに引き続き、各委員から質疑を行い、閉会した。
質疑応答の内容は以下のとおりであった。

■株式会社 明治スポーツプラザ

(質問) 教室の申し込み方法はどのような方法を考えているか。また、WEBと抽選型の両方を交えたハイブリッドで行うのであれば、公平性を確保しながらどのように抽選を行うのか。

(回答) 教室の予約方法は、ハイブリッドを考えている。すでに、若い世代の方の教室ではWEBでの申し込みを経験している。課題としては、どのようにしたら高齢者の方がWEB予約をしていただけるかということである。
館内でのタブレットの貸し出しやZoomの体験会等により、操作方法を施設の中で学び、慣れていただくことで、来館されている方の申し込みについては、WEB予約が可能になるのではないかと考えている。また、施設に足を運ばれない方については、往復はがきでの申し込みを新たに導入し、利便性を高めたいと考えている。

(質問) 職員の新型コロナウイルス感染症予防対策について、どのような対策を考えているか。

(回答) 職員の感染予防対策については、ワクチン接種の強制はできないが、推奨はしている。検査キットについては、本社である程度の数を準備しているため、検査希望者がいた場合は、すぐに検査ができる状態を整えている。また、行動規程を定めており、社内で周知・徹底をしている。毎回、入社時の体温測定や手洗い、消毒を行っている。

(質問) スポーツジムでは飲食は駄目と言いながらも、水分補給が必要となり、どうしてもマスクを外す可能性がある。そのあたりをどのように運用しようと考えているか。

(回答) 水分補給については、共有で使う冷水器等の利用は中止とし、ご自身で飲み物を用意いただくようにしている。また、どうしてもマスクを外すような場面では、職員の声かけ等を強化している。

(質問) 更衣室のような狭い空間は、感染症が広がりやすい場所でもある。利用者が利用された更衣室での感染予防対策について教えていただきたい。

(回答) 更衣室については、職員が常駐していないエリアになるため、必ず男女の職員を配置し、こまめな巡回を行う。また、マスクがつけられないようなシャワールームなどもあるため、そのあたりは、定期巡回により利用者へ協力依頼をする。窓がある場所については換気などを行う。換気能力が十分かどうかなどは、施設担当職員が確認をする。

(質問) 接遇教育や障害をお持ちの方に対する研修などは年に何回くらい行っているか。

(回答) 研修に関しては、まず採用時研修で接遇を必ず行うようにしている。採用後は、大体3か月に1度くらいは、休館日などを利用し、職員を集めて集合研修の場を設けている。また、eラーニングシステムを導入し、いつでも振り返りができ、自宅で研修が受けられるような体制を整えている。研修は、接遇の項目だけでなく、安全の項目、コンプライアンスや実技指導など幅広く準備をし、教育体制を整えている。障害者研修についても年に1度は、神奈川県が実施している障害者理解促進研修を活用し、障害当事者の方の研修を受けさせている。

(質問) 危険予知訓練等をされているということだが、危険予知で行われた訓練にはどのようなものがあるか。

(回答) 危険予知に関しては、毎日出社時に、施設を巡回することを徹底している。巡回時、例えば、サウナの板のささくれやプールの床が滑る場所がある等の施設の不備が見つかった場合は、開館前に対応をするようにしている。

(質問) 危険予知であがった記録を使い、働いている職員にはどのように共有されているか。

(回答) 事例が見つかった場合は、職員全員に対して、朝礼や回覧により、周知を図るようにしている。また、同じような施設を幾つも運営をしているので、各施設で起こった事例については、すべて共有サーバーに保存し、他の施設においても気をつけるようにと、全社で発信するような仕組みを作っている。

(質問) ヒヤットしたことやハットした事例は、年にどのくらいあるか。

(回答) 店舗によって発生の件数平均が異なる。例えば、スポーツ系の体育館については月に2件ぐらいは必ず、傷害発生の報告がある。また、3か月に1回ぐらいは、救急車の搬送がある。搬送理由は循環器系でのトラブルというものではなく、アキレス腱を切ったなどの比率が高い。他の健康増進センターについては、病院にかかるようなレベルの発生件数が、月に1件あるかないかである。

すこやかんでは、年平均で2件くらい救急搬送をしたという事例があった。ただ、発見が早かったため大事には至らず済んだということがほとんどであった。

(質問) 運動施設で運動を実施していない方への施設利用を促す工夫のようなものがあれば教えていただきたい。

(回答) 高齢者の方に施設に足を運んでいただくことに関しては、家の近くで運動ができる環境が必要ではないかと考え、今回はコミュニティーセンターでの運動を強化したい。また、横須賀市内には多くのラジオ体操サポーターが活動しているので、その力も借りながら、活動場所も幅広く周知を行い、まずはそこに足を運んでいただくようにしたいと考えている。その繋がりを持って一緒に施設に来ていただく、または車で連れてきてくれる方と繋がるなどの方法で、最終的には施設に来ていただけるようになるのと良いのではないかと考えている。

(質問) 軽度の認知障害から認知症に進まないようにするためには運動や社会参加、色々な方と話をしたりするなどが有効だと思う。そのような認知症予防プログラムを用意されているか。また、認知症の方がフロアでマシン利用されるときをサポート体制、職員の認知症に対する知識及び理解の状況を教えていただきたい。

(回答) 高齢者に関しては、現在、明治スポーツプラザでは、横須賀市の健康長寿課から介護予防事業や認知症予防プログラムの依頼を受け事業を実施している。そのため、地域に出向き、行う高齢者介護予防については経験がある。

認知症予防プログラムの内容については、旅行プログラムやウォーキングプログラムなど、参加者が自主的に活動できるような取り組みをサポートする役割として、認知症ファシリテーターや認知症サポーターを派遣するといった事業を行っている。このような経験を生かし、すこやかんでも高齢者の方を集めて、ご自身たちで、ウォーキングのプランを立て、そこに行き、写真を撮り、それを発表する機会を設けるなど、そのようなことができたらと考えている。

認知症の方の対応については、認知症サポーターのオレンジリングを取得するような研修に職員を参加させていた。受付を含め、認知症に対する理解は他のフィットネスクラブと比べて高く、障害者や認知症の方、高齢者の対応の接遇研修には最も力を入れている。

(質問) 社員自身の個人情報も守るという点で、どのような社員教育や取組を行おうと考えているか。

(回答) まず、利用者に対しては、全員平等に接するということが大前提にある。明治スポーツプラザでは、初めて見る利用者に対して必ず声をかけることを徹底している。特定の方とのみ会話するなど偏りがないようにすること、職員と顔見知りになると物を持ってきてくださる方もいるので、そのような場合、物は絶対に受け取らないことも徹底している。

自分の個人情報を外部に漏らしたり、利用者と深い繋がりにならないようにと、職員には非常に強く言っている。

(質問) 利用者が旅行のお土産を持ってきても、社員は受け取らないということだが、利用者へも周知できるような形になっているか。

(回答) 社員には物は受け取らず、必ず断るようにと伝えている。その対応は非常に難しいため、状況によっては、必ず上職に報告をするようにと伝えている。

(質問) 若い世代の運動参加に関して教室の企画等があれば教えていただきたい。

(回答) 働き世代に関しては、今まで開催していた教室は「決まった曜日と決まった時間に来てください」といったことが多かったため、欠席に繋がっていた。今期に関しては、その日の都合に合わせて、予約し受講できるといった、サブスク教室という新たな形を考えている。また、この世代は、美しくありたい、ダイエットをしたいといった目的を持った方が多くいるので、そのような方達向けに美を追及するようなプログラムや食事と運動をあわせたプログラムの導入を考えている。

(質問) 動画配信をするということだが、動画配信はユーチューブか。また、動画配信は誰でも見られるものか。

(回答) 動画配信はユーチューブである。動画については、無料の範囲と有料の範囲の両方を用意している。

(質問) 動画配信とすこやかんの施設運営についての具体的な住み分けについて、考えているものがあれば教えていただきたい。

(回答) プレゼンテーション画面に映っているものは誰でも簡単に見られるものとなっており、内容が変わらないため、どうしても飽きてしまうことがある。有料のものは、申し込み制で、インストラクターがついて行うものである。すこやかんは、来館する価値にこだわりたいと考えている。足を運ばないとできない測定や相談の充実を図り、足を運んでもらえる施設を目指している。

(質問) 横須賀市全体への施設の周知方法について、考えていることを教えていただきたい。

(回答) これまでも横須賀市全域に折り込みチラシの配布とコミュニティーセンターにチラシの設置を依頼し、横須賀市全域にチラシが届くようにしていたので、引き続き行う。また、地域情報誌等にも掲載し、横須賀市全域に伝わるように常々考え、取組んでいきたい。